

平成27年度 医療事故・インシデントについて

宮城県立病院機構が運営する各県立病院における平成27年度の医療事故・インシデントの状況について、下記のとおり公表します。

平成28年7月5日

地方独立行政法人宮城県立病院機構
理事長 西 條 茂

1 レベル別件数

レベル	循環器・呼吸器病センター	精神医療センター	がんセンター	合計
5	0件	0件	0件	0件
4	0件	0件	0件	0件
3	13件	32件	62件	107件
2	3件	233件	54件	290件
1	228件	362件	539件	1,129件
0	46件	28件	106件	180件
合計	290件	655件	761件	1,706件

2 事象別件数（主な医療事故・インシデントの種類）

循環器・呼吸器病センター	精神医療センター	がんセンター
ドレーン・チューブ関係(69件)	転倒・転落(121件)	転倒・転落(197件)
与薬・服薬関係(55件)	給食・栄養関係(102件)	ドレーン・チューブ関係(136件)
検査関係(35件)	患者の暴言・暴力(87件)	与薬・服薬関係(105件)

3 平成27年度に実施した主な防止対策

○ 循環器・呼吸器病センター

インシデント等の種類	対 策
ドレーン・チューブ関係	<ul style="list-style-type: none"> 環境の変化による不穏行動などにより自己抜去することを防ぐため、患者の状態変化の観察を強化、固定用絆創膏の変更を行った。また、点滴を必要最小限のライン管理にするなど、患者が自己抜去するリスクを下げるための取り組みを行った。
与薬・服薬	<ul style="list-style-type: none"> 手順ミスを防ぐため、与薬手順の遵守やダブルチェックの遵守など、確認を徹底した。 服薬指示の伝達ミスを防ぐため、服薬指示管理簿の改訂を行った。 与薬や服薬の確認を徹底するため、医療安全標語を掲示し、注意喚起した。
検査関係	<ul style="list-style-type: none"> 検体の取り違えを防ぐため、検体提出の患者氏名と検体容器のダブルチェックの遵守など、確認を徹底した。 外来検査のチェック漏れによる検査未実施を防ぐため、検査部門や会計システムを活用し、検査の未実施を察知した際の連絡体制を整えた。

○ 精神医療センター

インシデント等の種類	対 策
転倒・転落	<ul style="list-style-type: none"> 患者の危険予知のため、パンフレットを作成・配布した。また、多職種チームでの事故カンファレンスを行ない、防止対策を講じた。
給食・栄養関係	<ul style="list-style-type: none"> 病院負担食を減少させるため、各病棟に注意喚起を促すための標語やポスターを掲示した。 異物混入（毛髪混入）インシデントを減少させるため、栄養係に対して、委託業者の調理担当者が被るフードタイプの衛生帽の導入を依頼した。
患者の暴言・暴力	<ul style="list-style-type: none"> 暴力防止に係るポスターの掲示を行なった。また、医療従事者が暴力に対する適切な介入を行えるようにするため、CVPPP(包括的暴力防止プログラム)を実施し、受講した医療従事者が事故カンファレンスに参加し、評価を行うなど、資質向上や体制整備を図った。

○ がんセンター

インシデント等の種類	対 策
転倒・転落	<ul style="list-style-type: none"> 医療者の介助時の転倒を少なくするため、理学療法士による「安全な移乗方法」に係る研修会を開催し、医療従事者の資質向上に努めた。 患者の行動を適切に察知するため、離床センサーの配置状況の確認を行った。
ドレーン・チューブ関連	<ul style="list-style-type: none"> 輸液ラインのチューブ破断を防止するため、現在使用している製品の取り扱いについて周知した。今後、医療従事者を対象とした研修を行っていく。
与薬・服薬関係	<ul style="list-style-type: none"> 薬品管理における医療従事者の負担軽減のため、薬品カートの新等を行った。 与薬時の確認方法や、確認の遵守について、医療安全だよりを通じて、院内で周知した。

(参考)

【医療事故等のレベル】※ 宮城県立病院機構医療安全管理指針

区分	レベル	内容
ヒヤリ・ハット事例	レベル0	実施前に気づき、患者に実施されなかった場合
	レベル1	実施されたが、患者への身体的被害等がなかった場合
	レベル2	バイタルサインに変化が生じた、または検査の必要が生じた場合
医療事故	レベル3	本来必要としない治療や処置が生じた場合
	レベル4	一生継続する、または数年にわたる後遺障害が生じた場合
	レベル5	事故のため、死亡した場合